

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和元年度高松市自殺対策推進会議
開催日時	令和元年11月18日(月) 13時00分～14時30分
開催場所	高松市防災合同庁舎(危機管理センター) 3階302会議室
議 題	(1) 高松市自殺対策計画の進捗状況について (2) 各団体の自殺対策に関する取組について (3) 今後の自殺対策の取組みへの意見について (4) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	鈴江会長・上枝副会長・三野委員・佐藤委員・廣瀬(美)委員(代理:住吉氏)・田中委員・茅田委員・島津委員(代理:鎌野氏)・伊勢島委員・荻田委員(代理:倉山氏)・廣瀬(和)委員・廣瀬(太)委員・松岡委員・岡崎委員・久保委員(代理:田岡氏)・藤川委員・河野委員・松下委員・森本委員(代理:磯崎氏)・吉井委員(代理:堺氏)・川上委員(代理:池内氏)、日笠委員、山下委員
傍 聴 者	1人(定員3人)
担当課及び連絡先	高松市保健センター 839-2363

会議の経過及び結果

次の通り、会議を開催した。

1 開会

2 議題の協議

(1) 高松市自殺対策計画の進捗状況等について

事務局から説明を行い、ご意見をいただいた。

(2) 各団体の自殺対策に関する取組について

事務局及び各団体から説明を行い、委員よりご意見をいただいた。

(3) 今後の自殺対策の取組みへの意見について

団体から説明を行い、委員より意見をいただいた。

(4) その他

事務局から委員の任期について説明し、今後の協力も依頼した。

3 閉会

会議の経過及び結果

【質疑応答・意見】

議題（１）について

会 長）女性の「ストレスを感じた人の割合」が増えているため、女性のストレス対策に取り組む必要があると感じる。

議題（２）について

委 員）他の相談窓口の電話が繋がらないと警察に電話してくる人がいる。長時間、話を聞くこともあり、その場合は精神保健福祉法に基づいた情報提供はしているが、精神疾患以外の方で自殺に関連する案件を情報共有する手段や情報を集約する仕組みを作れないかと提案しているが、今はできていない。他県では、そのような仕組みを作って成功した事例もあると聞いた。ぜひ、仕組み作りや人材確保をしてほしい。

委 員）香川県の自殺の状況では、30～40歳代男性が増えている。ターゲットを絞って出前講座等で啓発していく。自殺未遂者訪問等支援事業では、香川県立中央病院と連携しているほか、香川大学医学部附属病院と労災病院にも事業の周知をしている。精神保健福祉センターにおいては、こころの電話相談で自殺に関する相談も受けている。また、厚生労働省でも全国共通ダイヤルを設置しており、最寄りの精神保健福祉センターにつながるようになっている。

委 員）いのちの電話では、自殺を考えている人と直接接することは少ない。電話も匿名で、どこからかかっているのかもわからない。自殺を減らすために、周囲の人が気づくことや生きる力を持てるように関係機関が協力していると思うが、実際に自殺しようと思っている人への具体的な対応はどうすればよいか。何らかの形でSOSを出している人、精神科病院・保健所・市の福祉課に相談に行ったり、本人の相談を受けている家族や友人から、自殺に関連する情報があった時に、速やかに対応できる方法を考えていく必要があるのではないか。

会 長）自殺対策関係の啓発やキャンペーンは重要だが、委員の意見にもあるように、少し踏み込んで、具体的にどうするかを考えていくことも必要である。

委 員）他の機関も発言していた通り、自殺に関連する情報の集約と共有が必要である。高松市での組織的な取組や相談窓口の多さは良いと思うが、市民がどれだけその相談窓口を知っているか。今回の会議での意見を、今後の参考にしてほしい。

委 員）情報交換が大切だと思う。自殺の多い時間帯等、原因を検証してもらえると家族に対して「この時間は気を付けるように」等、具体的なアドバイスができるのではないかと。

会 長）夜間の電話対応で警察官はいろいろな内容の話を聞くことがあると思うが、「話の聞き方」等の研修は受けているのか。

委 員）専門的な研修は受けていない。

会 長）保健センターは夜間の対応はしているか。

事務局）夜間対応はしていない。

会 長）教育現場では自殺対策をどのように捉えているか。

委 員）教育の現場で「自殺」をとりあげて何かをするということはないが、「自殺につながること」として、いじめ等の未然防止の取組が主となっている。高松市の子どもたちは自己

肯定感が低いため、異学年交流等で自己効力感を高める場を設定している。

会 長) 地域における自殺対策も重要であるが、学校や職場での対応も必要である。

委 員) 香川県では、若年層向けの自殺対策として、小中高校生を対象とした出前講座は学校と連携して実施している。

委 員) 所属している職場に今年度から保健師が配置され、医師・看護師・保健師の3人で職員の相談対応をしている。最近の相談内容には、ネット依存やゲーム依存等の新しい相談内容が出てきている。こういった内容に関してつなげる窓口はどこになるのか。また、休職中の人への職場復帰支援について対応しているが、復帰支援プログラムに沿って実施してもうまくいかず、深刻な事態になったことがある。職場復帰支援について関わり方のアドバイスをしてくれるところはないか。

事務局) 保健センターのこころの健康相談の中では、ゲーム障害の相談も受けている。また、こころの健康セミナーのテーマにゲーム障害を取り上げており、広く市民に啓発している。

委 員) 依存症専門医療機関・依存症治療拠点機関でもある三光病院 海野院長と情報共有している中で、ゲームの課金トラブルの相談が多いと聞いている。ケースごとに背景が違う。本人の問題でもあるが、家族の問題でもある。県精神保健福祉センターも相談窓口になっていると思うが、どうか。

委 員) 相談窓口の1つとして依存症の相談を受けている。

議題(3)について

委 員) 自殺を考えられない社会は危険である。そのような考えを持ちながらも、口に出したときに「どうしてそう思うのか」と問いかけることが必要。自分の物差しと相手の物差しは違うということを理解して相談を受けるべきである。自殺を未然に防ぐことができるように、会議の中で話をするだけでなく、ネットワークを作っていかなければならない。

現在自分が髪を伸ばしているのは、ヘアドネーションのためである。学校では、男子生徒が髪を伸ばしているとダメと言われる。学びを深めていくために、できることがある。もっと団体が活動できるようにしてほしい。

また、相談を受ける中で相手との行き違いがあり、相談者に相談場所を特定されてしまいつけられるなど、相談員の中には身の危険を感じる場合もある。そのような時には警察にもパトロール等で協力してほしい。

委 員) 自殺対策に関する情報が、自分の周りにはあまりないのでまずは情報を知りたい。相談を受けるにも、自分たちのスキルアップが大切ではないかと思う。

議題(4)について

事務局) 委員の任期が2年間となっており、令和2年3月31日までとなっている。次年度以降の委員就任については事務局から改めて御相談させていただく。